

令和 6 年度 地域課題ネットワーク会議 報告

～高齢部門における8050ケースの相談支援や課題について～
事例を振り返る

多摩市地域ケア会議について

C 地域課題ネットワーク会議（市全域）

圏域単位では解決できない課題を、市全域で検討する会議。
主催：高齢支援課

B 地域課題会議（圏域単位）

個別地域ケア会議から積み上げた地域の課題を検討する会議。
主催：2層又は包括

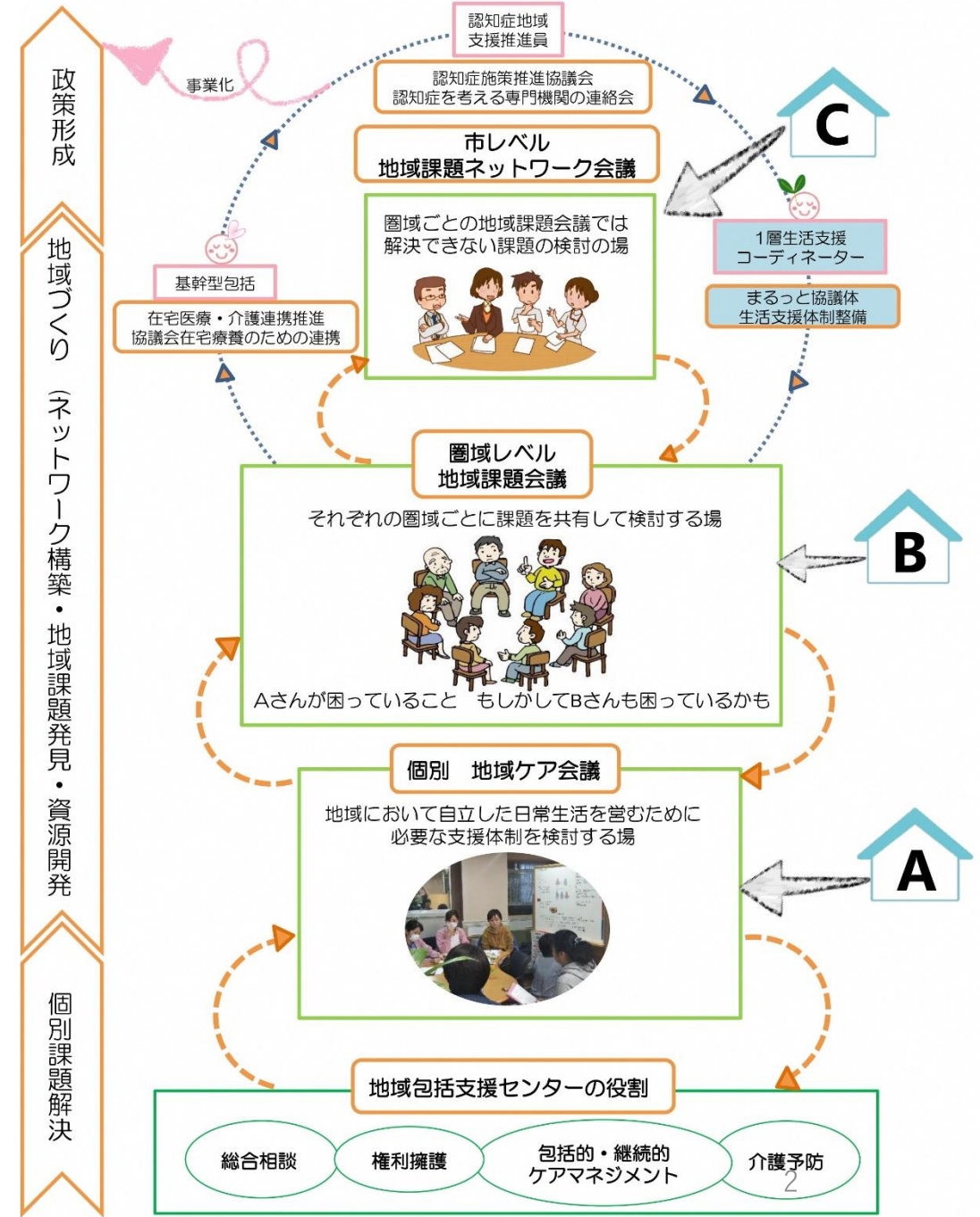
A 個別地域ケア会議

個別ケースについて検討する会議。
目的に応じて、以下の3種類の会議がある。
主催：包括

- ①ぐっとらいふミーティング（自立支援）
- ②にこにこミーティング（本人参加）
- ③らくらくミーティング（本人不在）

（略）地域包括支援センター：包括
しごと・くらしサポートステーション：くらサポ
第2層生活支援コーディネーター：2層

多摩市 地域ケア会議イメージ図



令和5年度振り返り① ～議題決定～

- 個別地域ケア会議・日々の業務等で、8050ケースの増加が顕著
- 8050ケースは課題が複合化・複雑化しており、単なる制度・サービスの紹介で解決できない

⇒ 8050ケースに係わる関係機関と情報の共有、意思統一が必要

⇒ 令和5年度の地域課題ネットワーク会議で議題とする



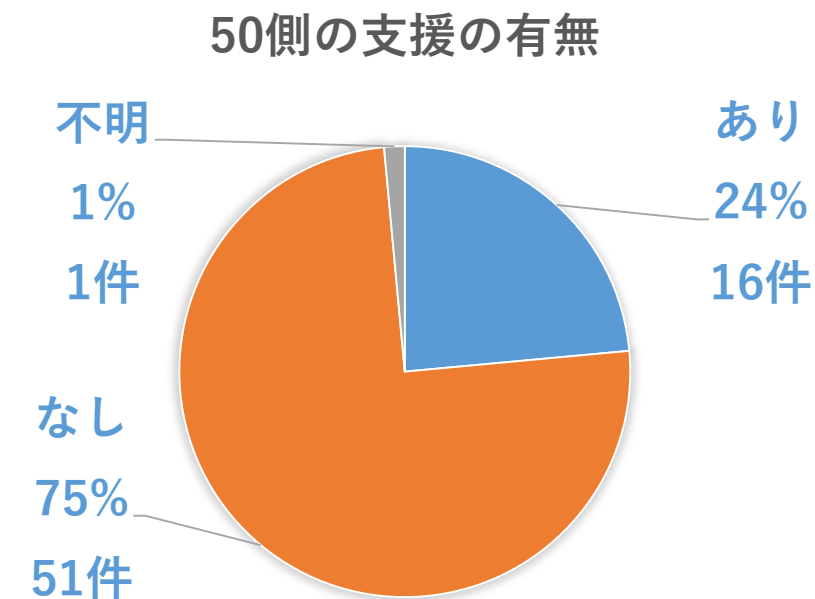
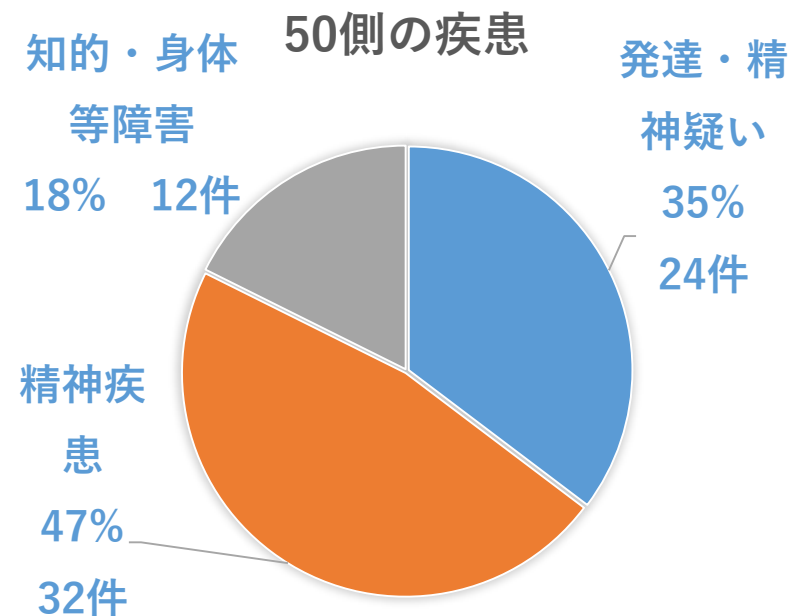
各包括の8050事例を抽出し、課題の分析を行う

令和5年度の振り返り②

～8050ケース分析～

令和5年4～6月の各包括の8050事例を抽出。68事例

- 50側の疾患
精神疾患 47%
発達障害・精神疾患疑い 35%
82%
- 50側の受診・就労
受診歴なし・就労なし 75%
→ 50側が受診や支援の必要性を感じにくい、対応困難
不適切介護等になりやすい



令和5年度振り返り③ ～令和6年度検討事項決定～

令和5年度地域課題ネットワーク会議で整理した課題

□ 課題が複合化・複雑化している

・ 他分野との連携が必須

□ 制度の狭間にある課題

・ 今後支援が困難になると予測される場合でも、支援を拒否されると介入・予防ができない

・ 民生委員の友愛訪問や見守り相談窓口訪問の対象外のため、早期発見・介入ができない

□ 支援者の課題

・ 関連部署における制度の相互理解が不足しているため、支援に苦慮する

・ 支援会議へ相談すべきか、地域ケア会議等其他方法になるのか区別が難しい

・ 包括が8050ケースを発見し、主となって支援をすることが多く、業務負担が増加している



○ 高齢支援課の地域ケア会議と事例検討会（多摩市版地域包括ケアNW連絡会）の「**目安表**」作成（R5）

○ 包括のスキルアップのためテーマ別研修実施（R5）

○ 「**多機関連携**」をどのように進めていくか検討



R6年度会議!

目安表（R 5 作成）

【事例検討会（多摩市版地域包括ケアNW連絡会）と地域ケア会議について：めやす表】

2024/3現在

<50側の状況>

原則として

- 1) 65歳未満の方
- 2) 何かしらのサービスや支援を受けていない方
- 3) 相談や支援の希望はないが、明らかに支援が必要だと思われる方

<50側の状況>

独居 または
同居者は65歳未満

事例検討会

（多摩市版地域包括ケア
NW連絡会）

<50側の状況>

同居者に65歳以上の高齢者、または
介護保険制度を利用している第2号被保険者がいる

地域ケア会議の活用

- ・ 高齢者の生活を守るための、養護者支援として「地域ケア会議」を実施。
- ・ **他関係機関** の参加を依頼（会議を通して役割分担を行う）

「どの課を呼べばいいかわからない、、、」
高齢支援課にご相談下さい！

50が
サービス・支援先なし

・ 福祉総務課の参加
※くらさばの参加有無相談
支援先・つながり先・つながり
の役割分担、等

生活困窮（生保受給無）

・ 「くらさば」の参加
※福祉総務課に調整
対応へのアドバイス
くらさばへの具体的なつながり方
等

生活保護受給中

・ 生保担当CWの参加
ケース情報・課題の共有
生保CWとの役割分担
等

50が
手帳あり（サービス利用無し）

・ 障害福祉課の参加
対応へのアドバイス
利用可能なサービス等情報提供
サービス等、つながりの役割分担
等

50が
手帳なし

※保健所への参加依頼
（精神疾患疑われる場合）
対応へのアドバイス
保健所との役割分担
等

SV

必要に応じ・医師・心理士・リハ職、等

地域課題ネットワーク会議 概要 令和6年9月20日

《次第》

- 開催挨拶
- 昨年度抽出した68事例の約1年後の状況について
- 事例紹介（6事例）
- グループ討議（各グループ2事例）
「8050ケースから考える
～つながらなかつたケースを
いかに減らせるか。」
- グループワーク、発表

《参加機関》

- 地域包括支援センター
- 生活支援コーディネーター
- しごと・くらしサポートステーション
- 南多摩保健所
- 多摩市社会福祉協議会
地域福祉コーディネーター
- マルシェたま地域活動支援センター「のーま」、「あんど」
- 福祉総務課
- 障害福祉課
- 生活福祉課

令和 6 年度 8050 ケースのその後を追跡①

- 令和 5 年 4 月～6 月対応ケースを把握

全ケース： 68件

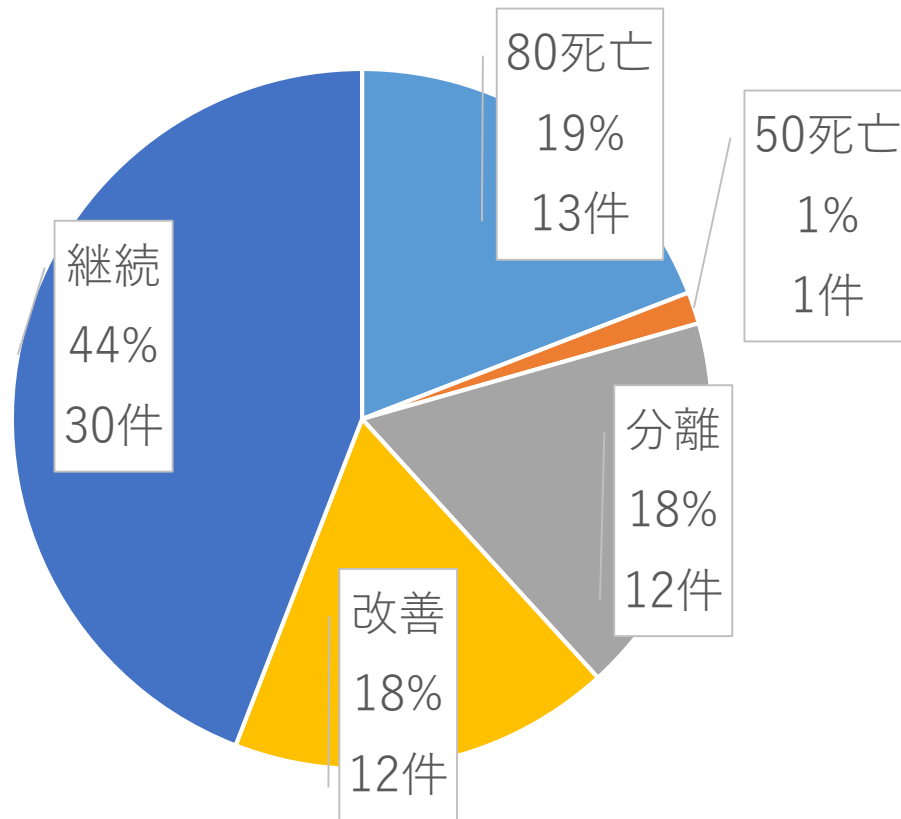
積極的支援実施中 63件

情報等の対応のみ 5件

- 令和 6 年 6 月 1 日時点の状況は次のとおり・・・

令和6年度 8050ケースのその後を追跡② ～1年経過後のケースの状況～

令和6年6月時点の8050の状況



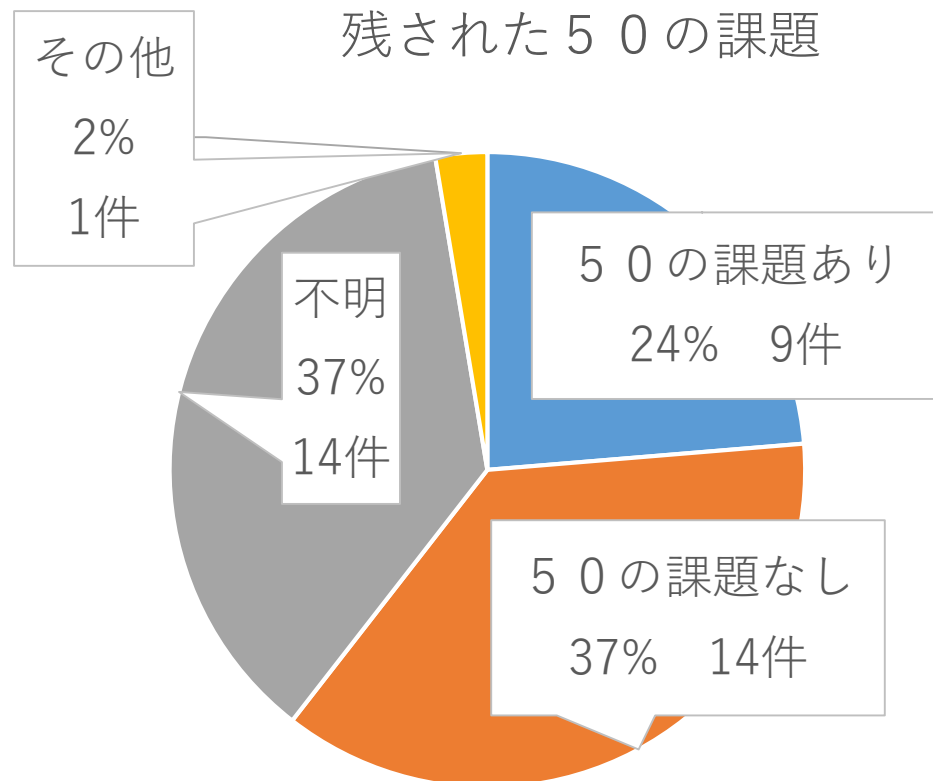
- 1年で半数以上が、高齢者の死亡・入所又は介入により終了になった。

対応終了 38件
(死亡、分離、改善)

継続 30件

令和6年度 8050ケースのその後を追跡③ ～ 80の対応終了後の50の課題～

80の対応が終了したケースで
残された50の課題



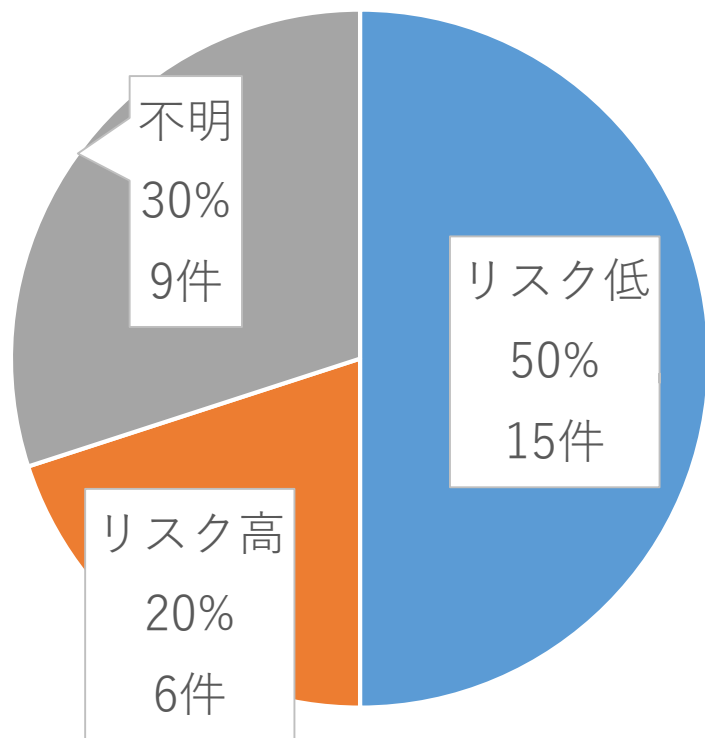
- 死亡、分離、改善等により包括での対応が終了した38件のうち
課題あり 9件
課題無し 14件
課題の有無不明14件

80の問題終了後の50への介入はできず、不明が多い。
連携が必要。

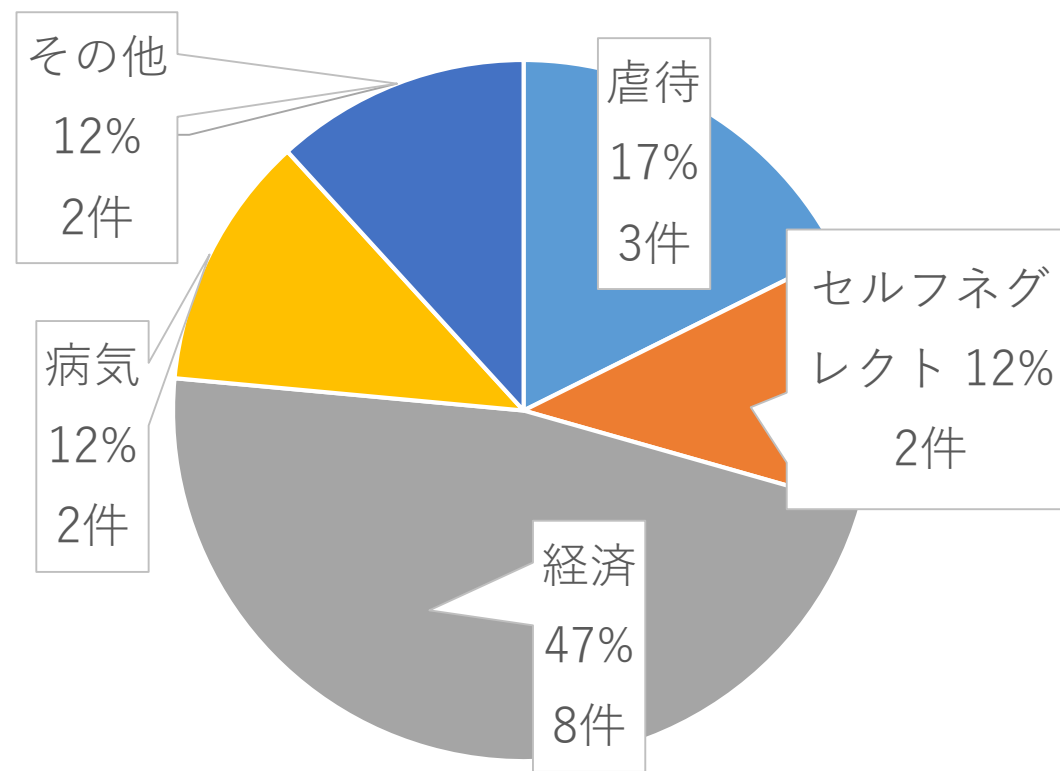
令和6年度 8050ケースのその後を追跡④

～包括対応継続中のケースのリスク～

継続ケースのリスク（30件）



継続ケースのリスクの種類
(30件のうちリスクが明らかなもの)



事例紹介とグループ討議

「8050ケースから考える

～つながらなかったケースをいかに減らせるか」

討議内容

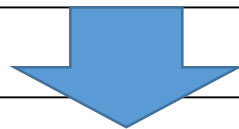
①課題

どのように関わることができたのか・できなかったのか？

②課題の解決策は？

支援につながらないケースを減らすために、必要な支援は？

どこの機関が支援できるとよいか？



討議結果

□あると良い本人支援

50版包括支援センター（50への支援ができるところ）、50の社会的な手続き全般の伴走支援機関、50の精神的な不安定さを助けてくれる支援

□あると良い包括支援

50の見立て対応を相談できる機関（精神・発達系）、定期的なカンファレンスの場、8050の支援（主に50）の進行管理をする部門

□その他

若年層からの支援・制度周知が必要。困りの感のない8050から相談ニーズを引き出すスキル

関係機関の対応とりまとめ及び共有

グループ討議結果について

- グループ討議結果を集計し、各機関で行える対応について取りまとめ、共有する。

1 1 月 課題整理し関係機関へ確認依頼

1 2 月 回答回収

2 月 まとめ共有予定

⇒ 支援が必要な方を取り残さないよう

集計結果を活用して関係機関が協力・連携する。